

世界遺産アカデミー認定講師 File No.28

このコーナーでは、世界遺産アカデミーの啓発活動にご支援いただいている世界遺産アカデミー認定講師の方に毎回スポットを当てて、お話を伺います。第28回目の今回は、中国などの海外駐在を皮切りに国内各地を巡り、福岡、名古屋、東京と複数のエリアでガイドランスされたご経験をもつ、第1期WHA認定講師の織田陽一(おだ・よういち)さんです。

認識力を深めてくれた、 世界遺産

現在は在京ですが、私は転勤が多く、世界遺産検定を初受検した2008年は、福岡で一般社団法人九州観光推進機構と協働の、インパウンド事業に取り組んでいました。“Visit Japan Campaign”と銘打ち、県庁や市役所など自治体と協力しながら、韓国・中国・台湾などアジアを中心に世界各国に日本の観光地を紹介するという広報事業です。観光地の魅力を突き詰める仕事の延長として、世界遺産学習を始めました。認定講師になったのは2009年8月です。私は工学部出身の理系で、自然科学や生物、地学、建築などの知識に馴染みがあったため、自然遺産や産業遺産は頭に入り易く、得意分野です。

世界史やワインに関係する世界遺産も魅力的で、自分の好きなものが世界遺産に集約されているように思います。

異文化理解からお互いを尊重し合うことができれば、世界平和へ繋がります。その理想を一言で示せるのが「世界遺産」です。個人レベルの関係でも、歩み寄り人たちが増えて集団化すれば、衝突の可能性は減少します。尖閣諸島が国有化された2012年に私は大連に駐在していたのですが、青島はイオン(ジャスコ黄島店)が暴徒化した集団に襲われました。親日都市の大連でさえ反日デモの危険性に脅かされたのです。また、ナイロビを訪問した際は、やはり治安は劣悪で、車に乗っていても銃で撃たれることが日常的。平和のありがたさを痛感させられました。世界遺産は、そうした国際情勢の事例の宝庫で、幅広



大地溝帯のケニア湖沼群「ナフル湖」での一枚

い知識を習得できます。面白いことに、1,073件の登録物件の中でも、スッと入ってくるものと、そうでないものがあります。小さくて素朴な木造教会は、豪華なゴシック教会と違って、ひと目でその価値が分かり難いかもかもしれませんが、時代背景や建築様式を調べてみると、捉え方が変わっ



ナイロビで間近のロスチャイルドキリンに感動できます。馴染みにくい世界遺産を突き詰めると、自分の価値観をひとまわり大きくしてくれるのです。今まで受け容れることのなかったものを、自分なりに掘り下げて、受け容れられるようになる。こういったプロセスを繰り返していくうちに、自らが歩み寄っていくこと、認識する力が深化したよ

うに思います。

特に運命的な出会いだと感じられたのは、ドレスデンのエルベ渓谷です。訪れたのは2004年。当初はベルリンを回っていたのですが、以前から心惹かれていたドレスデンの街が世界遺産に新規登録されたことと耳にして、足を伸ばしました。ご存知の通り、「ドレスデン・エルベ渓谷」は、2005年にヴァルトシュレスヒェン橋の建設計画が決まり、危機遺産リストに記載。2009年に建設が開始されるとともに、世界遺産から除外されてしまいました。世界遺産の勉強を始めるまで、あの美しいエルベ渓谷が危機遺産リスト入りしていたとは露知らず、衝撃を受けました。登録抹消された2009年は、私が認定講師となった同年で、エルベ渓谷とのシンクロニシティを感じざるを得ませんでした。街並みは本当に美しく、

2004年に見たあの景色が、まさに世界遺産なのだ、強く印象に残っています。今、ドレスデンを訪れたら、もう世界遺産ではない、このような登録抹消された世界遺産はたった2件……エルベ川の流がまさに私を世界遺産学習へと導いてくれたとさえ感じます。あえて抹消された世界遺産を観に行くというのも、新たな気づきがあるかもしれませんね。

——今ここに在る生態系は、 奇跡的なこと

「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」とりわけ、久賀島の「旧五輪教会堂」に、私は注目しています。ごく普通の戸建ての平屋に尖塔とステンドグラスが付け加わった小さな

教会で、独特の建築です。初見の印象は、「なんだ、これは?」です。尖塔と屋根瓦がマッチしていない。ノートルダム大聖堂やシャルトル大聖堂の印象が強いせいか、旧五輪教会堂の姿にはとても違和感があります。ところが、室内で天井を見上げると、リブ・ヴォールトがきちんとあって、ステンドグラスから光も射し込んできます。まさにヨーロッパと日本が融合した独特の建築技術で、衝撃的でした。また、自然遺産では、キリンやフラミンゴなどの野生動物が生息する「ケニア山国立公園」や、『大地溝帯にあるケニアの湖沼群』のような地形がダイナミックな自然遺産にも、心惹かれます。ちょっと違うことが起こって、環境が変化していれば、まったく違う動物が棲息していたかもしれません。地球温暖化にしてもそうです。私たちができることは限られていますが、ほんの小さなことでも道を違えてしまうと、

生態系は崩れてしまう。大地溝帯に棲むキリンを見ていたら、今、地球上に存在している生態系は、本当に奇跡的なことだと思いました。

最後に、認定講師としてのお話をすると、明確な主題を持って説明できたか、受講生たちが期待する内容を伝えられたか、時間配分が適切だったか、など準備不足の反省点が頭を過ぎります。また、検定対策講座と生涯学習講座とは、受講生のタイプがまったく異なります。前者は仕事、家事や学校で忙しい中、それでも学習したいんだという方々も見られ、本当に共感してしまいます。後者は時間の余暇を満喫されたい方々が多く、世界遺産クイズがとても盛り上がりやす。空気を読みながら、ガイドランス内容を適宜変化させることも必要です。自分が伝えたいことが整理されていると、全体の筋がスッキリします。その上で、皆さんに笑っていただける、気の利い



【明・清時代の皇帝陵墓】の清昭陵にて、子供たちとともに

た話題を織り交ぜられる講師を目指したいです。受講生の皆さんには、検定合格はもちろんですが、世界遺産が伝えてくれる“美しいもの(普遍的価値)”の素晴らしさを体感し、人生の楽しみを広げていただきたいと思います。認定講師として、今後も身を引き締めて、講演に臨みたいと思っています。